

大崎地域の観光の現状と課題について

北部地方振興事務所地方振興部

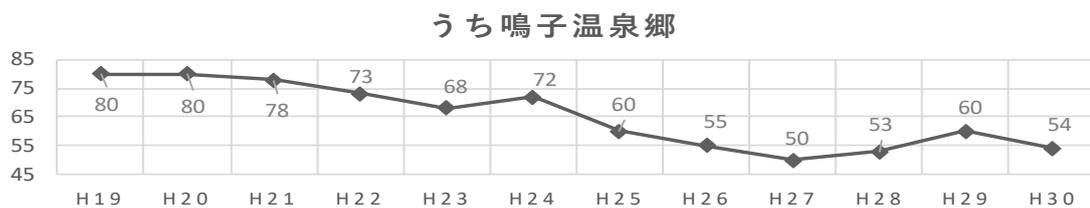
1 現 状

- (1) 大崎地域の観光客入込数は震災前まで 1,000 万人前後で推移していたが、平成23年には東日本大震災の影響により 885 万人に激減した。平成29年に 945 万人と震災前の 94.7%にまで回復し、平成30年は 935 万人となっているが、いまだ震災前の水準には達していない。



- (2) 大崎地域の宿泊観光客数は平成19年まで 100 万人前後で推移していたが、平成20年以降は減少の傾向にあった。東日本大震災後、温泉旅館での二次避難者の受入や復興関連需要等により一時的に回復が見られたものの、近年は再び減少の傾向となっている。

※ 大崎地域の宿泊観光客の約7割を鳴子温泉郷が占めている。



- (3) 大崎地域の宿泊観光客を居住地別にみると、県全体と比べて県内居住者の割合が高い。また、県外では関東・東北地方の割合が高い。

平成30年居住地別宿泊観光客の構成比（不明を除く）

項 目	県内	県外	県外			合計
			関東	東北	その他	
県全体	32.7%	67.3%	29.1%	19.7%	18.5%	100.0%
大崎地域	49.9%	50.1%	22.1%	16.0%	12.0%	100.0%
うち鳴子温泉郷	54.9%	45.1%	22.2%	14.2%	8.7%	100.0%

- (4) 大崎地域は、観光客入込数に占める宿泊観光客数の割合が県全体と比較し低く、短期滞在型が多い傾向にある。

平成30年観光客入込数及び宿泊観光客数

項 目	人 数	宿泊客の割合
県内全体の観光客入込数	64,244,486	14.6%
同 宿泊観光客数	9,407,597	
大崎地域の観光客入込数	9,349,384	8.4%
同 宿泊観光客数	784,555	

(上記グラフ・表の出典 「宮城県観光統計概要平成30年」宮城県観光課作成)

- (5) 新型コロナウイルス感染症拡大による影響

地域経済、特にホテル・旅館・飲食店など観光関連業に大きな打撃。

大崎地域の観光・宿泊施設における観光・宿泊客の状況

項 目	観光施設	宿 泊 客
令和2年5月の状況	ほぼ閉館	前年比1割程度

(関係機関聞き取りによる推計)

2 課 題

- (1) 当面の課題

- ① 新型コロナウイルス禍からの観光客・宿泊客の回復

→大崎地域の見える化した感染対策による安全・安心の認知

→近郊の方々の訪問(マイクロツーリズム)需要の喚起・創出

- (2) 中長期的課題

- ① 旅行形態の変化への対応

→団体旅行から個人旅行等への旅行形態の変化へのさらなる対応

- ② 県外居住者や海外旅行客に対する旅行需要の喚起

→インバウンドを含め、県外からの誘客の促進

- ③ 長期滞在型観光の促進

→宿泊施設の周辺観光地への周遊などによる連泊観光の実現